

Do!とくコーナー・4年生

資料～名前のない手紙【テーマ 友情】～

わたし(井上明子)は、苦手の理科のテストで初めて80点以上をとり、思わず「わあ、83点。やった！」と叫んでしまう。その場で先生からも励ましの言葉をいただく。わたしは、調子に乗ってしまい、「…次は90点となります。」と、みんなの前で先生に言ってしまう。

その後、クラスのみんなが、急にわたしのことをのけ者にし、わたしがそばへ行くとすうっと離れていき、誰ひとり口をきいてくれないことが何週間も続く。

その後、杉田光子がみんなに、わたしも絶対に仲よくするなという指令を出したことを知る。光子は成績トップで活発なリーダー的存在であり、光子の指令なら、みんなは逆らえない。しかし光子は元々わたしの1番の仲よしであった。わたしは、もしかして83点のあの理科テストが原因ではないか、今回の理科テストではたまたま光子はわたしより低い点だったのかも、…と考える。でも、光子には抗議できない。ひとりでみんなを敵に回す勇気はない。来る日も来る日も、わたしは、ひとりぼっち。そんなつらい日々が何週間も続く。

ところが、ある日わたしの筆箱の中に手紙が入っている。「…杉田さんの言うとおりにしているけど、井上さんを本当に嫌っているのではないよ。ほかにも同じ気持ちの人がたくさんいるよ。…」と。名前のないその手紙をわたしは何度も何度も読み返す。心の中に明かりが灯ったような気がする。手紙はその後日もたびたび筆箱に入れてある。励ます内容や健康を気遣う内容、等々。

やがて、吉野はるえという子が転校することになり、お別れ会の日、はるえは次のようにみんなに話し始める。「…どうしても言わなければならないことがあります。何も理由はないのに、みんなの真似をして井上さんを仲間はずれに…。とても恥ずかしいことをしたと反省している。…本当に御免なさい…。」すると教室のあちこちから「わたしも。」「わたしも。」…と声が上がる。わたしは涙があふれる。どうどう、この日、わたしのひとりぼっちは終わる。光子もやがて、元の光子にもどる。

名前のない手紙を、わたしに書き続けてくれていたのは、吉野さんだったと、今も思う。

★1人ひとりの児童が、これまでのこと・これからのことを考えながら、そして自分の心と向き合いながら、思いを発言したり道徳シートに綴ったりしました。

発問① 「あなたが井上さんのクラスメートだったら、どうしますか。」

まずは明子に話しかけてあげる。その後に解決できなかつたら、自分の分かる範囲で先生に全部伝える。
【男子】

私だったら、まだ光子がこわいし、自分がいじめられたらいやだから、光子の言うことをきいて、井上さんと話さないと思います。でも後で、あやまりたいです。【女子】

〔第①場面〕

私は、みんなと一緒に井上さんをいじめてしまうかもしれない。【女子】



発問② 「もらった手紙を机の下にかくして、何度も何度も読み返したとき、「わたし」(井上)は、どんな気持ちだったでしょうか。」〔第②場面〕

うれしい気持ち。心に刺さった針がちょっとだけ抜けそうな気持ち。うれしくて涙が出そう。【男子】

本当は自分はひとりぼっちじゃなかつた。自分のことを考えてくれてる子がいて、ほつとした。【男子】&【女子】

みんながみんな、自分をきらっていわけじゃないんだ。【男子】

たった1人でも、私のことを心配してくれている。本当にうれしい。【女子】

みんな光子がこわくて、言うとおりにしてたんだ。私もこわいし。【女子】



発問③ 「これから、どんな気持ちで、どんなことに気をつけて、友達と接していきますか。」〔第③場面〕

泣いている子がいたら、「どうしたん？」とか聞いてあげたいです。また、誰かに話す前には、言つていゝ事と言つたらダメな事(心を傷付ける事)を考えながらいきたいです。【女子】

わたしは、ひとりぼっちの子には、話しかけようと思います。そして、このクラス全員がずっと笑顔でいられるクラスにしたいです。【女子】

わたしは、いじめをしたことがあります。でも、これからは、ぜつたに、いじめをしないようにします。【女子】



